

毎月第3土曜日は「ご聴聞の日」。ぜひ如是我聞の会や法話会にご参加ください。

THE LIONJI NEWSLETTER

ライオン寺だより

2009年3月1日号 1992年7月1日創刊 第201号

浄土真宗本願寺派 来恩寺
〒253-0072 茅ヶ崎市今宿1-1
TEL 0467-87-5527
発行者 来恩寺住職 橋本正信

来恩寺 永代経法要

永代経法要とは、故人をご縁として永代に経(教え)が伝わりますようにと願い、お寺に懇志を進納してお寺の様々な活動(営繕や教化)に協力することを目的とした法要です。

来恩寺では年に一度厳修しており、故人の法名や氏名を永代経帳に記入して末永く皆さまのご家族が来恩寺にご縁をもっていたくことを願っております。

懇志を進納される方は故人の法名・氏名と進納者の住所・氏名を紙に書いて当日お寺までお持ちください。郵送でも結構です。

ぜひご家族でご参拝くださいますようご案内いたします。

記

日時 4月18日(土) 午後1時30分～
会場 来恩寺本堂(茅ヶ崎市今宿1-1)
法話 西原祐治師(千葉県西方寺住職・本願寺派布教使)
迎え 12時30分頃 茅ヶ崎駅北口自家用車乗降所
送り 午後4時頃 来恩寺から茅ヶ崎駅へ

記

花まつりボウリング大会

四月八日はお釈迦さまのお誕生をお祝いする「花まつり」ですが、来恩寺では毎年四月の上旬(今年は十一日)に子どもからお年寄りまでみんなが参加できる「花まつりボウリング大会」を開催しております。

ハンデキャップ戦でボウリングを行い、来恩寺では花まつり法要と表彰式を兼ねた懇親会を行います。上位入賞者には豪華な賞品(子ども達には任天堂DSなどの賞品)と全員の参加賞もご用意いたします。

ぜひご家族でご参加ください。

日時 4月11日(土) 10時～
会場(集合) ビッグワンボウリング
(国道1号「今宿」信号そば)
花まつり法要と懇親会
来恩寺本堂と二階広間
会費 1名1500円 中学生以下無料
申込 3月末日までに来恩寺へお電話で(先着50名)

法話のようなもの

死を思うー映画と小説を鏡にして

アカデミー賞発表の前日(二月二十二日)、朝日新聞に次のような「社説」が掲載されました。「死」に対して、大事な視点を教えてくれている文章だと思いましたが、転載します。

衰えず、観客二百七十万人を超えるロングヒットになっている。日本時間の二十三日に発表される米国アカデミー賞では、六十以上の国・地域が出品した作品の中から外国語映画賞の候補五作に選ばれた。

は誰に対しても同じ丁重さで向き合う。「悼む人」の旅の目的は、どんな死者も「誰にも代わることのできない、ただ一人の人物として覚えておくこと」だけだ。

映画の脚本を書いた小山薫堂

小説を鏡にして

おくりびと。悼む

人。「死」と向き合

う人を描いた映画と

小説が、大きな反響

先ごろ直木賞に決まった小説

「悼む人」(天童荒太著)は、

人が亡くなった場所を訪ね「そ

の人が生きていたことを胸に刻

む」という旅を続ける青年が主

さんは、現実の納棺師に聞いた

「死とは、究極の平等」という

言葉に強く触発されたと話して

いる。

「悼む人」の天童さんは、〇

避けられない。死は生きることの中に埋め込まれた、私たちの一部である。しかし日本社会では病院で亡くなる人が増え、日常生活の中で死の具体的な姿は見えにくくなっている。

一方で、私たちは、報道を通

して毎日のように悲惨な事件や

事故を見聞きし、世界のあちこ

ちの紛争やテロで何百、何千の

命が失われていることを知る。

多くの不条理な死を思い、慄然

とする瞬間もある。

をよんでいる。

映画「おくりびと」

(滝田洋二郎監督)

は、本木雅弘さん演

じる主人公が職を失っ

て故郷に帰り、「納

棺師」になる物語だ。亡くなっ

た人の体を清め、その人にふさ

わしい姿にして棺に納める、葬

送の仕事である。

派手な映画ではないが、公開から五カ月たったいまも客足は

人公だ。昨年十一月に出版され

た単行本は二十五万部のベスト

セラーになった。出版社のウェ

ブサイトには読者から、死と生

について考えた長文の手紙が、

数多く寄せられているという。

二つの作品の主人公はともに、

自分のしていることへの理解を

強く求めず、真摯に、淡々と死

者と相対する。

「おくりびと」が出会う死者は、年齢も死に方も様々だ。彼

一年の米国での同時多発テロと

アフガンへの報復攻撃に衝撃を

受けて、この小説を構想した。

多くの人の死に痛みを覚え、大

きく報じられる死と小さく扱わ

れる死があることに矛盾を感じ

る中から、あらゆる死に等しく

思いをはせる主人公が生まれた。

「死に軽重をつける社会は、生

きている人も公平に扱えない」

とも考えている。

老いや病の先にある死は誰も

たい。(以上「社説」)

映画「おくりびと」の下地と

なった青木新門氏の著書「納棺

夫日記」を私もついぶん前に読

みましたが、死は特別なことで

なく、死をしっかりと見据える

ことで生が輝いてくる、仏教で

言う「生死一如」を教えてください

ます。ぜひ一読を。映画も。

みすゞの詩

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。

私がかからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがつて、みんないい。

今月から「みすゞの詩」と
題して私の大好きな童謡詩人
金子みすゞさんの詩を味わっ
ていきます。

この企画は、以前にやった
気がするのですが、住職がう
ろ覚えということは、読者の
皆さんは「絶対忘れてる」
ということですので再度実行
いたします。あしからず。

みすゞさんは明治三十六年
山口県に生まれ、大正末期、
すぐれた作品を数多く発表し、

西條八十氏に『若き童謡詩人
の巨星』とまで称賛されなが
ら、昭和五年、二十六才の若
さでこの世を去りました。

その詩の多くは、仏教の慈
悲の心と智慧の眼で感じた世
界・見えてきた世界を表現し
たもののように私には思えま
す。

この「私と小鳥と鈴と」の
詩も、仏教の平等観を見事に
表現しております。最後の
へみんなちがつて、みんない
い」の言葉によって、命のあ
るものも命のないものも、す
べてのものが完璧な平等にな
りました。

この詩は小学三年生の国語
の教科書に載っておりますが、
子どもたちがこの詩によって、
自分と友達の能力や個性など
は、みんな違っていて当然、
いろんな考えがあつて当然と、
すべてのものを「そのまま」
に認めていく、「本当の平等
観」を学んで欲しいものだと
思います。

この詩の教科書への掲載を
認めた「文科省はえらい」
と一応ほめておきましょう。

春季彼岸会法要

来恩寺では今年も下記の通り「春季彼岸
会法要」を厳修いたします。

浄土真宗のお彼岸はお墓参りの期間では
ありません。お墓参りも大事ですが、故人
をご縁とした仏法聴聞の期間としてお彼岸
はあるです。

ぜひ、ご家族ご友人をお誘いになってご
参拝ください。

来恩寺へは茅ヶ崎駅北口までの送迎車を
ご利用ください。

記

期 日	2009年3月21日(土)
時 間	午後1時30分～
会 場	来恩寺本堂
法 話	来恩寺住職 橋本正信
迎 え	12時30分頃 駅北口自家用車乗降所
送 り	4時頃 来恩寺から茅ヶ崎駅へ

来恩寺奨学金制度 奨学生募集中

来恩寺では今年も来恩寺にご縁のある母
子・父子家庭のお子さんが、高校・大学・
専門学校などへ入学された場合、奨学金
(入学祝い金)10万円を贈呈いたします。

4月末日までに入学証明書や在学証明書
などと共にご応募ください。奨学生には都
合が合えば「夏休み子ども会(7月29日～
31日の二泊三日を予定)」のお手伝いをし
ていただきます。

6年前から始めた奨学金制度ですが、
多くの皆さまからご賛同をいただき、多額
のご寄付がございましたので今年も募金は
いたしません。

今年の応募状況によっては、来年の正月
頃に一口5千円位の募金のお願いをする予
定です。その際はよろしくご協力ください。

法座・催し物・ご案内

ほのぼの法話会

毎月第3土曜日午後1時30分から「ほのぼの法話会」を開催しておりますが3月は21日で「彼岸会法要」、4月は18日で「永代経法要」となります。迎えは駅北口広場(コーギーコーナーの所)に12時30分頃です。お気軽にご参加ください。

によぜがもん 如是我聞の会

毎月第3土曜日午前11時から、身近な問題をみんなで話し合う「如是我聞の会」を開催中です。3月は21日で4月は18日です。午前10時30分に駅北口にお迎え。午後は法話会ですので、お弁当持参でお越しください。

親鸞聖人750回大遠忌 鎌倉組記念行事

期日 2009年5月24日(日)
会場 鎌倉芸術館大ホール
内容 「記念法要」「記念講演」
講師 島田洋七氏
入場料 1名 2千円(全席自由)
チケットは来恩寺で販売中

宗派不問 永代共同墓地

宗派不問の永代共同墓地。お友だちにもお知らせください。生前予約も可です。
名称 永代廟「永遠の絆(とわのきずな)」
費用 遺骨一体20万円(小学生以下)
大人の遺骨は一体35万円です。
年間の管理費等は一切必要ありません。

雑記

五月二十四日の
鎌倉芸術館での

「記念行事」のチケットが来恩寺に届いておりますので、申し込まれた方は来恩寺まで取りに来てください。

チケットは一枚二千円ですが、来恩寺が半額を補助いたしますので千円で結構です。他寺院の門徒の方には内緒にしておいてください。

ところで米アカデミー賞の外国語映画賞を受賞した「おくりびと」の滝田洋二郎監督と、映画制作のきっかけとなつた小説「納棺夫日記」の著者、青木新門さんは、共に富山県

の出身ですが、同じ富山県(富山市)の自動車メーカー「光岡自動車」が、霊柩車「おくりぐるま」の新型車を二月二十四日に発表しました。光岡自動車では七年前から「おくりぐるま」の愛称で霊柩車を販売しており、滝田監督がその車を意識して映画のタイトルを付けたかどうかは分かりません。

新型「おくりぐるま」のデザイン(青木さん(富山って青木姓が多いの?)は「映画

を見て、つらく悲しいだけというだけの死のイメージから、死者は尊厳と優しさを持って送るべきだという認識に変わった。尊厳と優しさを持って死者を運ぶための車をイメージしてデザインした」と話しております。

そんな尊厳と優しさにあふれた新型車(写真を見る限り私には普通の霊柩車にしか見えませんが...)をオシャレに乗り回したいお方は、光岡自動車(電話0120・49・3360)にお問い合わせください。

それにしても絶妙のタイミングで(アカデミー賞発表の翌日)新車を発表するものだと感心してしまいます。

また「おくりぐるま」の愛称もなかなかのものですね。「霊柩車」でなく「おくりぐるま」ですと、知らない人が乗っていても、何となくそつと手を振りたくなくなるような気になります。

この映画をきっかけとして人々が「死」をもっと明るく考えるようになればと思います。「死」は永遠の別れではないのです。ぜひ「聴聞を...